

press release

2010年3月5日

(これは、ロンドンにて2010年3月3日付で配信したものを、日本の皆様に向けて抄訳したものです)

スタンダードチャータード PLC 2009 年度決算発表 税引き前利益は、前年比 13%増の 51.5 億米ドルを計上

堅調な業績の伸びにより、営業収益・税引き前利益共に 7 年連続で最高益を更新

業績ハイライト:

- 営業収益は、昨今の厳しい世界経済情勢にもかかわらず、前年比で 9%増加し、151.8 億米ドルを計上
- 資本強化と高い流動性保持に引き続き注力したことで、配当金額および EPS(一株当たり利益)が上昇
- 事業部門・市場の全般にわたり、堅調で多岐にわたる収益成長が見られた
- 2009 年度下半期の融資減損額は、コンシューマーバンキング・ホールセールバンキング両部門で、大幅に減少
- 顧客向けサポートを拡充 - 住宅ローン貸付残高が 21%増加
- 2010 年度、コンシューマーバンキング・ホールセールバンキング両部門は力強いスタートを切ることができた

スタンダードチャータード PLC(スタンダードチャータード銀行の最終持ち株会社。本社:ロンドン、CEO:ピーター・サンズ)の2009 年度業績(3月3日付で発表)は、営業収益・税引き前利益が、各々 151.8億米ドル、51.5億米ドルと、7年連続で最高値の更新を達成いたしました。これは、世界経済が引き続き停滞する中、事業展開する市場、および事業部門全般にわたる当行グループの力強い収益力と成長力を示すものです。また、グループの持つ潤沢な流動性と堅固な自己資本ポジションにより各地の市場シェアをさらに伸ばしたことが、2010年初頭からのビジネス成長を生み出しています。

2009年度は、アジア・アフリカ・中東地域の市場全般において、堅調で多岐にわたる収益成長が見られました。世界5市場での営業収益は10億米ドルを超え、インド、香港においても10億米ドルを上回る税引き前利益(OPBT)を計上しています。コンシューマーバンキング部門では同年下半期に業績が大きく好転した一方、ホールセールバンキング部門では顧客数および自己勘定取引からの収益が大幅に増え、引き続き堅調な成長基調を維持しています。

この厳しい市況下において、当行グループは個人・法人のお客様を一貫して支えてまいりましたが、それが、市場の枠を超えて融資残高やその他顧客サポートビジネスの増加につながっています。2009年度の融資残高は、前年比で13%(280億米ドル)増加し、総額2,500億米ドルとなりました。また、住宅ローンについては、より多くの個人顧客による住宅購入を支援したことで、融資残高が前年比で約21%増の580億米ドルとなりました。さらに、新規事業、事業拡大のための中小事業法人向け融資の拡充に努めたことで、130億米ドル超(前年比14%増)の融資残高計上となりました。

当行グループは、これまでどおり継続して銀行業務の基本原則に立ち返り、厳格なコスト・リスク管理を行うと共に、潤沢な流動性と、堅固なバランスシートを保持してまいりました。修正後コスト・インカム・レシオ(経費率)は、費用が僅かながら4%(前年比)上昇したものの、56.1%から51.3%に減少しました。また、自己資本はオーガニックベースで力強い成長を見せ、成功裏に終了した増資も加味されて

30億米ドル超の伸びとなり、コアTier1資本比率は8.9%に、総自己資本比率は16.5%に向上しました。預貸率は、78.6%と堅調に推移していますが、保有資産のデリスク(リスク解消)を行うことで、先行き不透明な今後の景気に対する十分な対処が可能なものとなっています。

また、ホールセールバンキング部門は、明確で的を絞った戦略展開により、営業収益 92.9 億米ドル(前年比 24%増)、税引き前利益 40.8 億米ドル(前年比 36%増)と、前年度に引き続き力強い業績を達成いたしました。加えて、金融危機の局面においても、顧客事業へ前向きに取り組んできたことから、顧客収益は前年比 22%増の 68.8 億米ドルとなりました。これは、同部門総収益の 74%を占めるものです。顧客収益の伸びは、商品開発能力の拡充とクロスセリングの機会の増加に相俟って、融資、コーポレートファイナンス、ファイナンシャルマーケット事業に後押しされたものです。自己勘定取引については、ALM 事業が、特に日中の信用供与による顧客フローおよび商品取引をばねとし、30%上昇しました。

一方、コンシューマーバンキング部門は、複数の商品取引をベースとした顧客リレーションシップの構築に励み、引き続きリポジショニング戦略を遂行しました。さらに、支店ネットワーク、マーケティング、リレーションシップマネージャー(RM)の拡充のため投資を行い、成長を目指した強固な基盤構築に努めました。また、通年ベースでは利幅減少により営業収益・税引き前利益が落ち込んだものの、業績は年間を通じて上向き局面にあり、四半期毎の営業収益増で徐々に底堅い数値を計上しています。預金残高の伸びが 11%を記録した一方で、競合他行からのシェア獲得が功を奏し、顧客向け融資残高は 17%の伸びを示しています。また、約 50%の低い平均担保掛目(LTV)を維持する一方で、住宅ローン貸付残高は 21%増加しています。今年度下半期においては、営業収益、税引き前利益共に堅調な伸びを示し前期比で各々10%、49%の増加、また、ウェルスマネジメント部門における富裕層向け商品からの手数料収益も、今年度第 1 四半期から第 4 四半期までに 35%の増加となっています。

融資減損額については、今年度下半期には両部門で大幅に減少し、コンシューマーバンキング部門では上半期比で 13%減、ホールセールバンキング部門では 19%減となりました。

2009 年度、各国市場での堅調な業績により、各事業拠点の収益力はさらに強固なものとなりました。香港、シンガポール、韓国、インド、アラブ首長国連邦では、各々10 億米ドルを超える営業収益を上げていますが、その中でも、インドにおける 10 億米ドル規模の収益計上は、初めてのこととなります。当行グループは、この重要な市場において 2010 年中にインド通貨ルピーでの上場を目指していますが、この営業収益数値は、その後押し材料となるでしょう。アジアの対内投資の伸びに加えて、アフリカ市場の営業収益も前年比 20%増の 10 億米ドル超を計上。税引き前利益も 54%伸び、力強い収益成長が見られます。

当行グループ最高経営責任者(CEO)であるピーター・サンズは以下のように述べています。

「2009 年度は、営業収益、税引き前利益共に 7 年連続して最高益を計上いたしました。十二分な自己資本と豊富な流動性、そしてますます高まるブランド力を駆使し、競合他行から市場シェアを獲得し、顧客リレーションシップを深めました。2010 年を迎え、グループ収益は堅調さと成長モメンタムに支えられ推移しています」

詳細につきましては、以下の担当者にご連絡ください。

Jon Tracey, Head of Media Relations
E メールアドレス: jonathan.tracey@sc.com

+44 20 7885 7613

財務実績ハイライト

(単位: 百万米ドル)

グループ	2009 年度	2008 年度	増減 (%)
営業収益	15,184	13,968	9
費用	7,952	7,611	4
融資の減損	2,000	1,321	51
税引き前利益	5,151	4,568	13
ホールセールバンキング部門			
営業収益	9,291	7,489	24
税引き前利益	4,076	3,001	36
コンシューマーバンキング部門			
営業収益	5,629	5,952	(5)
税引き前利益	867	1,116	(19)

税引き前利益(国・地域別)

(単位: 百万米ドル)

国・地域	2009 年度	2008 年度	増減 (%)
香港	1,062	989	7
シンガポール	714	608	17
韓国	322	329	(2)
その他アジア太平洋 地域	770	705	9
インド	1,060	891	19
MESA 諸国	366	652	(44)
アフリカ諸国	482	313	54
米州・英国・欧州諸国	375	81	363

スタンダードチャータード銀行ーアジア・アフリカ・中東地域における先駆者として

スタンダードチャータード銀行の最終持ち株会社であるスタンダードチャータードPLCは、ロンドン証券取引所ならびに香港証券取引所に上場し、時価総額ベースでFTSE100 構成銘柄の上位20 社にランキングされています。ロンドンに本拠地を置く当行グループは、創立以来150 年以上の歴史を誇り、世界で最もダイナミックな市場ーアジア・アフリカ・中東地域における先駆者として事業展開しています。グループの営業収益および税引き前利益については、7年にわたり継続して最高益を更新していますが、これは事業母体からの収益成長(オーガニック成長)によるものです。

また、スタンダードチャータード銀行は、各国市場のお客様に注力した世界最高の国際的銀行を目指しています。グループの営業収益および税引き前利益の約9 割は、アジア・アフリカ・中東地域で事業展開するホールセールバンキングおよびコンシューマーバンキング両部門の事業収益から創出されています。また、世界70 カ国以上で1,700余の店舗展開をするグローバル事業ネットワークを有し、その市場やビジネスにおける飛躍的な成長により国際的なキャリア構築の機会を生み出しているのです。

当行グループでは、ステークホルダーである皆様の「真のパートナー」として長期的視野に立ったサステナビリティ(持続性)のある事業構築に取り組む傍ら、高いレベルでの企業統治(コーポレートガバナンス)を保持すると共に、社会的責任を果たし、環境保護と多様性のある人材育成にも力を注ぐことで、世界中の信頼を勝ち得ています。現在、125の国籍により構成される総勢75,000 余名の行員(その約半数は女性)を擁し、上級管理職の国籍は約70 に及んでいます。

日本・アジア地域におけるスタンダードチャータード銀行について

日本におけるスタンダードチャータード銀行の歴史は、横浜にはじめての駐在員事務所を開設した1880 年にさかのぼり、今年で130年目を迎えます。現在では、東京支店(千代田区・山王パークタワー)および丸の内支店(千代田区・岸本ビル)において約290名の従業員を擁しています。スタンダードチャータード銀行は、アジア・アフリカ・中東の各地域で投資事業を展開する日本の企業法人・金融法人のお客様向けにホールセール、カस्टディ、トレジャリー、トレードファイナンス等の金融サービスを提供するほか、2005年には個人のお客様向けに「プライオリティバンキング」部門を開設し、さらなる成長を続けています。

世界におけるスタンダードチャータードのウェブサイト(英語): www.standardchartered.com

日本におけるスタンダードチャータード銀行のウェブサイト(日本語): www.standardchartered.co.jp

日本におけるスタンダードチャータード銀行のウェブサイト(英語): www.standardchartered.co.jp/index_english.html

本資料に記載の「今後の見通し」については、現時点での予測・意見、もしくは将来予測されるイベントに基づき作成されたもので、その適時性、実現性を保証するものではありません。また、本資料には、予測、目標、見通し、傾向、計画、目標、評価、意見、可能性他、それに類似する表現が使用されていますが、このような表現を含む各種見解・見通しについては、今後の経済動向や市場環境等の変化に対応して当行の業績、計画、目標を変更する場合もあり、その正確性もしくは完全性に関していかなる責任も負わないものとします。また、本資料は、信頼できるとされる過去または現在の情報に基づき作成されていますが、将来における結果を示唆するものないことをご了解ください。更に、当資料中のコメントは作成日現在の当行の判断を示したものであり、将来のイベントや情報により内容に変更がある場合にも、当行はそれに対する責任を負わないものとします。